博士（文　学）　鬼　束　　彰

学位論文題名

順徳院歌集『紫禁和歌草』『順徳院御百首』の諸本研究

学位論文内容の要旨

本論文は順徳天皇(1197–1242)の承久乱前の和歌1200首余を収める『紫禁和歌草』の諸本、及び佐渡隠在時に纏めた『順徳院御百首』諸本の本文を比較してその祖形に遡及することを目的としている。

本論文は、１『紫禁和歌草』の諸本研究、２『順徳院御百首』の諸本研究の２部からなり、それぞれの本文校異編を含めて、総字数約120000字である。

【『紫禁和歌草』の諸本研究】

所用の諸本は

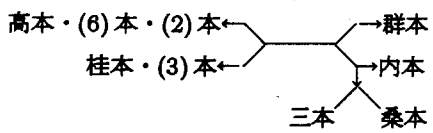
高本(高松宮本・一類本)
(2)本(書陵部御所本501-642本・一類本)
(3)本(書陵部御所本501-643本・二類本)
群本(続群書類従本・三類本)
三本(賀茂別雷神社三手文庫本・三類本)
桂本(書陵部桂宮本・一類本)
(6)本(書陵部御所本506-65本・一類本)
内本(内閣文庫本・三類本)
桑本(桑名市立文化美術館本・三類本)

の９本である。

諸本間に見られる異文の総数は559例であるが各本の独自異文計369を除いた190例の中で比較的数の多い

高本・(6)本・(2)本・桂本・(3)本・群本　⇔　内本・三本・桑本　43例
高本・(6)本・(2)本・桂本・(3)本　⇔　群本・内本・三本・桑本　45例
高本・(6)本・(2)本・桂本・(3)本・群本・内本　⇔　三本・桑本　22例
高本・(6)本・(2)本　⇔　桂本・(3)本・群本・内本・三本・桑本　12例

の対立が顕著である。これにより

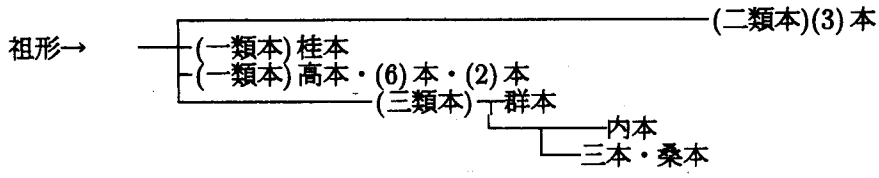


の諸本関係が明らかとなる。またそれぞれの対立異文についてその優劣を仮に

高本・(6)本・(2)本・桂本・(3)本・群本　→　内本・三本・桑本　19例
高本・(6)本・(2)本・桂本・(3)本　→　群本・内本・三本・桑本　11例
高本・(6)本・(2)本・桂本・(3)本・群本・内本　→　三本・桑本　6例
高本・(6)本・(2)本　←　桂本・(3)本・群本・内本・三本・桑本　5例

高本・(6)本・(2)本　→　桂本・(3)本・群本・内本・三本・桑本　4例
高本・(6)本・(2)本・桂本・(3)本　←　群本・内本・三本・桑本　3例

と判断し、さらに祖形に近い部分での本文対立について優劣判断を行えば、



のごとき系統関係を確定できる。

【『順徳院御百首』の諸本研究】

『順徳院御百首』は付載校本には32本の諸本を比較したが、歌本文に異同のあるところは約280箇所、その内約200箇所がいずれかの本の独自異文であり、双立異文は約50例程度で全諸本の系統・関係を明確にするのは困難である。それゆえ全体の系統立ては今後の課題とし、まず、部分的にグループ化できる諸本を提示する。すなわち、

京本(京都大学穎原文庫本)　内本(内閣文庫201-355本)　達本(宮城県立図書館伊達文庫248-18本)
三本(三手泉亭文庫本)　桑本(桑名市立美術館本)　鷹本(書陵部266-106・鷹司城南館本)
高本(高岡市立図書館本)　上本(上田市立図書館本)　待本(書陵部266-4・待需抄本)
島本(島根大学原文庫本)　多本(多和文庫本)　司本(書陵部266-237・鷹司城南館本)
大本(大阪市立大学森文庫本)　板本　浅本(内閣文庫201-335・浅草図書館本)
見本(書陵部伏172本)　川本(川崎市立博物館本)　伊本(宮城県立図書館伊達文庫911-201本)
岡本(岡山大学池田文庫本)　陵本(書陵部151-181本)　皇本(書陵部506-66・皇統文庫本)
吉本(京都女子大学吉沢文庫本)　書本(書陵部453-2本)　昌本(内閣文庫201-339・昌平本)

の24本については

(京本・内本・三本・桑本)・(高本・達本)・(上本・島本・鷹本)　⇔　他の諸本
(司本・浅本・多本・待本・大本・板本)　⇔　他の諸本
(伊本・岡本)⇔(見本・川本・陵本)　⇔　他の諸本
(吉本・皇本)　⇔　他の諸本
(書本・昌本)　⇔　他の諸本

の対立が認められる。そこで、それぞれのグループから一本ずつ、京本・達本・島本・大本・岡本・見本・昌本・皇本　を取り上げこれに残余の８本

鶴本(鶴見大学本)　壬本(書陵部353-868・『壬辰百首』本)　城本(書陵部266-240・鷹司城南館本)
閣本(内閣文庫201-337本)　熊本(熊本大学北岡文庫本)　久本(国文学研究資料館久松文庫D40本)
伏本(書陵部伏122本)　松本(国文学研究資料館久松文庫D41本)

を加えた16本によって本文を比較し検討する。

上の16本の比較でも、歌本文の異同箇所は173箇所、内独自異文が108箇所あり、諸本の関係・系統を知り得る双立異文は44例に過ぎず、しかも双立異文における諸本の組み合わせも特定のものに集中せず、系統を推測せしめるものがないため、ここでは補助手段である、関係距離の計測によって諸本の関係の傾向性を探る。

最終的には16本の中に　(京本・閣本)　(城本・達本・松本)　(大本・壬本・皇本)　(鶴本・島本)　(伏本・昌本・熊本)　(岡本・見本・久本)　の６グループを想定し、その関係図を提示するが、諸本間における系統的な異文対立はさほど明瞭ではない。

学位論文審査の要旨

主　査　　教　授　　宮　澤　俊　雅

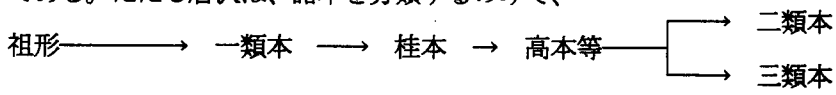
副　査　　教　授　　身　崎　　壽

副　査　　教　授　　安　西　　眞

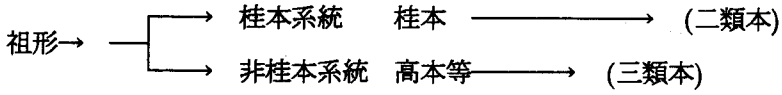
学 位 論 文 題 名

順徳院歌集『紫禁和歌草』『順徳院御百首』の諸本研究

本論文の『紫禁和歌草』の本文遡源の結論は、先行研究で唐沢正実(1985)の提示した「一類本が比較的良質な本文を有する」「使用の際には、桂本を底本として、校本によるべし」との意見に先見性を付与したものである。ただし唐沢は、諸本を分類するのみで、



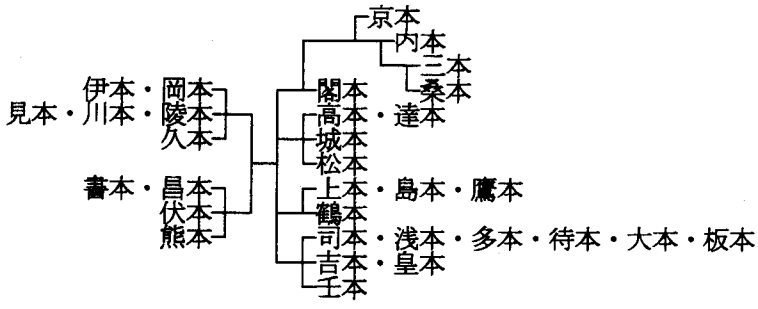
のように考えていると思われるが、本論文は



としているのである。

『順徳院御百首』の諸本については、先行研究は、種々の外形的特徴により、5類(奥田久輝1972)及び4類16種(唐沢正実1984)に分類する。そして「陵本・見本・閣本が比較的良質な本文といえるが、校訂本、校本による使用が望ましい。」(唐沢)とまとめている。

本論文でも、諸本の系統関係は未だ明確にするまでに至っていないが、例えば、京本・島本・達本・大本・岡本・見本の6本で本文を比較すれば、　(京本・島本・達本・大本) ⇔ (岡本・見本)　の対立は明瞭に認められる。これを手掛かりにすれば次のような諸本の関係を推測することは十分可能である。



これとは別に定家の評言を持つ本のみについて、その評言を対象にした諸本研究を行えば、『御百首』の書承も連動して明瞭になるものと見込まれる。

本論文は順徳天皇の和歌集『紫禁和歌草』『順徳院御百首』の諸本の系統関係・親疎関係を確定し、善本文への遡源を可能にしている。この意味で本論文は順徳天皇御歌の研究・和歌史研究を進展させるものである。審査担当者は全員一致して鬼束彰氏に博士(文学)の学位を授与するのが至当であるとの結論に達した。